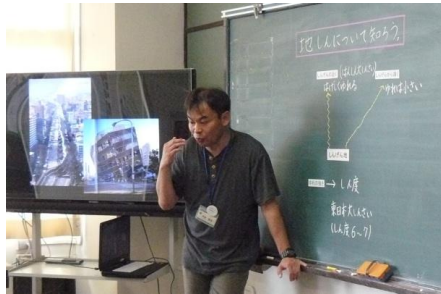




学校名 [岡田小学校] 氏名 [早坂 聖司] [小] 学校 [1・2・3] 年版 単元名 [地震について知ろう] P20～21 教科・領域名 [学級活動] [時間 45分]	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p>【ねらい】</p> <p>地震について知り、地震が起こった時の対応について考えよう。</p> <p>1 地震について知っていることを発表し、「震源」と「揺れ」との関係について、副読本の資料を活用しながら知る。</p> <p>《児童に伝えたこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震源が近いと激しい揺れになり、遠いと揺れは小さくなる。 <p>『震源に近い地震』→ 阪神淡路大震災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震の揺れの強さのことを「震度」といいます。 <p>2 日本とその周りでは、多くの大きな地震が起きていることを知る。</p> <p>3 家に一人にいる時など、様々な場面における地震への対応について考える。</p> <p>・「家に一人にいる時に大きな地震が起きたら、どのように避難する？」</p> <p>・「登下校中だったらどのように避難する？」</p> <p>・「校庭や体育館にいる時だったらどうする？」</p> <p>4 岡田の場合、大きな地震が起きると津波も心配だよ。東日本大震災では、どこまで津波がきたのか確かめてみましょう。</p> <p>【児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどが水色（浸水区域）だね。 ・岡田で高い建物は、学校しかないね。 ・大きな地震がきたら学校に避難しよう。 ・東部道路の西側まで逃げたら安心かもね。 ・あの時のこと思い出しちゃったよ。 ・津波についても勉強しなくちゃいけないね。 	<p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント・パソコン・大型テレビ ・副読本・ワークシート  <p>阪神淡路大震災の被害の様子をパワーポイントで紹介した。</p> <p>副読本の資料に加え、復興ルームの資料も活用しながら考えさせた。</p>  <p>阪神淡路大震災後に起きた大きな地震（21回）のうち、学校にいる間に起きたのはたったの3回しかないことを伝え、自助への意識を高めさせた。</p> 

(別紙)

「新防災教育副読本を活用した指導事例」様式（提出用）